【令和７年度　和泉小学校　学校経営全体構想図】

令和７年４月１日
狛江市立和泉小学校
校長　鷲見　真太郎

三中ゾーン
＜義務教育修了時の姿＞
自分らしさを発揮できる子
～多様性を受け入れる～

学校教育目標
○自ら行動する子
○かかわり合い、よりよい自分を目指す子

子供たちの思い・願い
毎日来たくなる楽しい学校
大人も子供も平等・協力
自由・挨拶・異学年交流

目指す学校の姿　子供と大人が協働して築く和泉小学校

目指す児童の姿　あるがままの自分を愛し、主体的に生きる子

エージェンシーの育成

「問い」をもって学び続ける児童

☆全教科領域で、子供たちが「問い」をもって学ぶ
→子供が主体となった学び（内発的動機付け）
→アントレプレナーシップの育成
☆教師と子供が協働して作るカリキュラム
→子供の「問い」からの問題解決学習
→子供と協働して作る学習計画と学び方の選択
→柔軟なカリキュラムをマネジメント
（SDGｓとの関連性と発展・ICT 活用）
☆学年経営マップの共有
→教師と子供の共通目標・積み上げ・振り返り
☆体験的な学び充実（エラーからのチャレンジ）
→地域との協力（GT の更なる活用）

自分たちで作る和泉小学校

☆児童運営委員会による学校運営
→子供たちの声を学校経営（運営）に生かす
→話し合いを通じ、自分たちの学校を作る
→自己実現を図り、子供が主体となる学校
→学校行事・学級会・係活動の充実
☆「対話」を通した解決　～自由の相互承認～
→互いの話を傾聴し、互いの権利・自由を保障
→最上位目標を常に意識した対話
→どうしたいか、どうすればよいかを問う
☆消費循環型学校農園（育てる・食べる・売る）
→自分たちが食べるものを自分たちの手で
→栽培、献立、収穫、販売等を自分たちで

児童全員の居場所づくり　～みんな同じじゃなくていい・「きちんと」を強制しない学校～

○校内サードプレイスの創設・・・みんなの居場所（仮称）の設置（誰が・いつきてもよい空間）
○すべての子供を全員で見取る学校環境・・・全教職員が共有（学年担任制・教科担任制の実施）
○心理的安全性の確保・・・子供のありのままを受け入れる、いじめへの迅速かつ組織的な対応
○ケアし合う集団作り・・・誰一人置いていかない、誰一人取りこぼさないことを目指す
○WEBQU の積極的活用（データの分析・比較と情報共有）・・・児童が支え合う学級集団づくり
○外部機関との連携・・・チーム学校として外部機関も含めた一体的な対応
○多様性を認める集団づくり・・・対話を通して、承認と信頼・異学年交流の充実

前向きな姿勢で子供と向き合う教職員集団

○自らの教育理念のもと、挑戦し続ける
○モチベーション高く、よりよい教育を模索し続ける
○自身の強みを理解し、磨き続ける
○子供の内面を理解し、あるがまま受け止める
○子供への愛情を共有し、保護者と信頼関係を築く
○危機意識を高くし、緊急時には迅速に対応する
○願いや思いを地域と共有する

地域・保護者との協働（CS の発展）

○スクールコミュニティの強化
・誰もが関わる学校農園
（学年・保護者・地域を問わず）
・地域カレンダーづくりとその活用
・地域（市政）と協働した活動
○幼保中高との連携（連続性を意識）
・児童の意欲を高めるつながり作り

自由の相互承認　全ての子供と大人のウェル・ビーイング